



OK たよ

大西勝彦

活動報告

No.82

2021年1月
大府豊幸会
(事務局) 刈谷市宝町8-1
豊田自動織機組合会館est内

令和三年 新春



大府市議会議員
大西勝彦

みなさん、こんにちは。大府市議会議員の**大西勝彦**です。新年を迎え、今年も心新たに議員活動に取り組んでまいります。新型コロナウイルス感染症に対しては、まだまだ予断を許さない状況が続いていますが、3密(密閉・密集・密接)の回避、マスクの着用、手洗い、咳エチケットの励行など、**一人ひとりができることを着実に**、「**コロナなんかには負けるもんか**」という思いで、**オール大府**でこの危機を乗り越えていきましょう。**12月議会**も一般質問に立ちましたのでその概要を報告させていただきます。



大西勝彦ホームページ
<http://www.medias.ne.jp/~onishi/>

12月議会 主な議案

☆ 大府市自然環境等と太陽光発電設備設置事業との調和に関する条例の制定

再生可能エネルギーの活用を推進しつつ、太陽光発電設備の設置による自然環境等への影響を抑制することで、自然環境等と太陽光発電設備設置事業との調和を図るため、条例を制定しました。

- (対象事業) 太陽光発電設備の事業区域の面積が1,000㎡以上のもの。
- (関係法令等の調査) 事業者は、市長との協議の前に関係法令や条例に適合するものであることを確認しなければならない。
- (設置事業の協議) 事業者は、事業の内容をあらかじめ市長と協議しなければならない。
- (地域住民等への意見聴取) 事業者は、地域住民に事業の内容を周知し、意見を聴取しなければならない。
- (維持管理等) 事業者は、設置した太陽光発電設備を適切に維持管理しなければならない。
- (指導・助言、勧告、命令、公表) 市長は、条例の規定を守らない場合、事業者に必要な措置を講ずるよう指導・助言、勧告を行うこと、中止を命令すること、事業者名及びその事実を公表することができる。
- (罰則) 虚偽申請や決定通知なしで事業を行った事業者に対して、罰金刑を科す。
- (施行期日) 令和3年7月1日

☆ 新設保育園建設用地の土地取得

老朽化した吉田保育園と米田保育園を統合し、令和5年度開園予定の新しい保育園を建設するため土地を取得します。

- (場所) 大府市馬池町二丁目123番始め4筆
- (面積) 5,068㎡
- (取得金額) 101,360,000円



【本会議での質疑】

(大西)

今回、保育所整備事業債として**市債を新たに1億円起債**し、土地購入費に充当するが、この事業の財源を、財政調整基金や子ども子育て応援基金、ふるさとのおおぶ応援基金などの基金の取り崩しや、他の事業の見直しによる予算の付け替えで対応しなかった理由は何か。

(長江 財政課長)

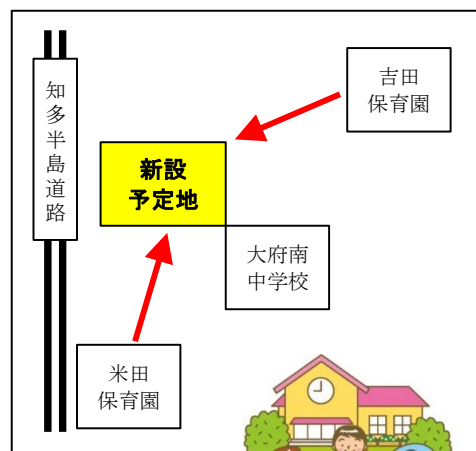
今回の保育園の整備については、各基金を始め、様々な財源を検討した中で、今の世代の負担と保育園を整備した後に恩恵を受ける世代との住民負担の**世代間の公平性**、さらに**財政負担の平準化**の観点から、1億円を市債により調達することとした。

(大西)

今回の起債は、国からの交付税措置はあるか。また、今回の起債で今年度の起債残高が増える。中長期の市債残高の推移を検証しているか。

(新美 企画政策部長)

保育園の整備に関しては、交付税の措置はないので、全て市の単独の事業となる。また、市長のマニフェストの中に「**全会計ベースで起債残高を増やさない**」という項目がある。それを、私どものバイブルとしており、今回、この1億円を新たに起債しても、全会計ベースで見ると、昨年度の起債残高を超えることはないので、問題ないと推計している。



大府市を「生活しやすい都市」にしよう・・・

(大西)

「生活しやすい都市」、これは3年前のこの場でも提唱させていただいたまちづくりのコンセプトだが、毎年の市民クラブの政策要望にも上げている。3年前の一般質問で、私は、当時の先輩議員から紹介された三浦展(あつし)氏の著書「人間の居る場所」の内容を引用し、都市と都会の違いや人間の居る場所の重要性を訴えた。それに対して、岡村市長は、20年前に読まれた田村明氏の著書「美しい都市景観をつくるアーバンデザイン」の中から、めざす都市像は「人間らしく住める場所」という言葉を引用された。そして私たちが提唱している「生活しやすい都市」と方向性は変わらないことを確認してもらった。そこでお尋ねする。大府駅周辺まちづくり計画に「生活しやすい都市」というコンセプトを取り入れる考えはあるか。

(岡村 市長)

大府駅周辺のまちづくりについては、その方向性を「居心地が良いウォーカブルなまちなか」と定めた。そして、大府駅周辺にお住まいの方々にとっては、「生活しやすい」空間を、また、駅及び駅周辺利用者の方々にとっては、「利便性」と「回遊性」を持ち合わせた空間を創出することで、人々の交流を促進し、多様な活動へと発展する機能的な空間構成となるよう、検討を進めている。大府駅周辺のまちづくりについては、多角的な視点から判断していく必要があるため、今後も引き続き慎重に議論を重ねながら、「健康都市おおぶ」にふさわしい計画として取りまとめていく。

大府駅を日本一送迎しやすい駅に・・・

(大西)

そもそも駅とは、電車の乗り降りをするところだ。駅を利用している市民のみなさんの一番望んでいることは、電車に乗り降りしやすいということだ。つまり、生活しやすい駅とすることだ。例えば、駅への車での送迎の際、送りと迎えを分離する、空港のような駅にしてみてもどうだろうか。立体的に考えるなら、2階を送る車、1階は迎えの車。平面的に考えるなら、駅前ロータリーは送る車、ちょっと離れた所に迎え専用のスペースを配置する。このようなアイデアを取り入れ、大府駅周辺のまちづくりを検討する中で、大府駅を日本一送迎しやすい駅にする考えはあるか。

(近藤 都市整備部長)

交通結節点としての利便性については、市民の皆様が送迎しやすいと感じていただける駅となるよう、限られた区域の中で構造的、技術的な面における検証等を進めていく。さらに、駅本来の「利便性」という視点に加え、「回遊性」や「滞留性」といった視点からも議論を重ね、健康都市としての本市の玄関口にふさわしい駅前空間となるよう、引き続き検討していく。

大府駅東西の自由通路を全天候型プロムナードに・・・

(大西)

「生活しやすい都市」をつくることは、市民のみなさんが望んでいることを実現していくことでもある。大府駅を利用する市民に限らず、多くの市民が望んでいることは、雨の日に大府駅西口ロータリーから大府駅の改札まで濡れずに行けることだ。大府駅周辺のまちづくりを検討する中で、大府駅東西の自由通路を全天候型プロムナードにする考えはあるか。

(伊藤 建設部長)

大府駅周辺のまちづくりを検討する中で、自由通路の利便性向上を求める御意見をいただいている。既存の自由通路への屋根設置については、構造上の問題や運行上の制限などから困難だが、大府駅東西の円滑な移動については、大変重要な課題として捉えており、中長期的な視点で調査研究していきたいと考えている。

循環バスを思い切って3倍に増便してみても・・・

(大西)

「生活しやすい都市」をつくることは、大府駅周辺の整備だけではない。駅を核にして公共交通のネットワークを充実させることも大切だ。市民からは循環バスの利便性の向上について、便数が少なく不便だという要望が出されている。思い切って循環バスを3倍に増便する考えはあるか。

(近藤 都市整備部長)

循環バスの思い切った増便については、費用対効果を考慮し、慎重に検討を重ねる必要があると考えている。今後については、本年10月に策定した「大府市地域公共交通計画」に基づき、引き続き、「健康都市おおぶ」に相応しい、持続可能な地域公共交通体系の構築を目指していく。

(大西)

便数を3倍にしたらどれだけの費用(予算)が必要か。

(深谷 都市計画課長)

現在の契約金額は、5年間で5億5,300万円、年間約1億1,000万円。
これを3倍にした場合は、5年間で16億5,900万円、年間約3億3,000万円となる。

(大西)

年間1億1,000万円、3倍にするとプラス年間2億2,000万円。今後、未来永劫こういう財源は出てこないのか。

(長江 財政課長)

財政当局としては、必要な施策事業については、政策決定過程において、その順序、優先度を決定した上で、国、県等の補助金、それから基金等を活用しつつ、進めていくことになる。

